

炎ゆる情熱☆
山口浩久通信
「星野村最後の年度がスタート」

vol.6
(2009春号)
2009.4.1発行

はじめに



『光陰矢のごとし』と云われます。星野村は、1889年(明治22年)4月1日、町村制施工により生葉郡星野村として誕生して以来、120年に及ぶ歴史を築いてきました。

歴史を振り返ってみますと、1889年は、大日本帝国憲法が發布された年です。強大な天皇の権限を機軸として成立した憲法の下、政党が結成され、それに伴う様々な運動、事件、戦争を繰り返してきました。大正時代に起きた第一次世界大戦、昭和初期(1929年)に起きた世界恐慌、そして第二次世界大戦へと続きました。この戦争は、原爆の灯をもつ星野村として、語り継いでいかなければならない出来事です。

戦後復興景気、不況の波を乗り越えながら高度経済成長を遂げ、その時代の芸術や文化を育んできました。アメリカに次ぐ世界第二位の経済大国となった日本の原動力は、日本人の勤勉さと田舎から都会へ人口を移動させた社会システムや教育システムであったと私

は思います。

しかし、昭和後期から平成初期のバブルと言われ、日本中が踊った時代は終わり、現在、政治・経済の転換点にきています。

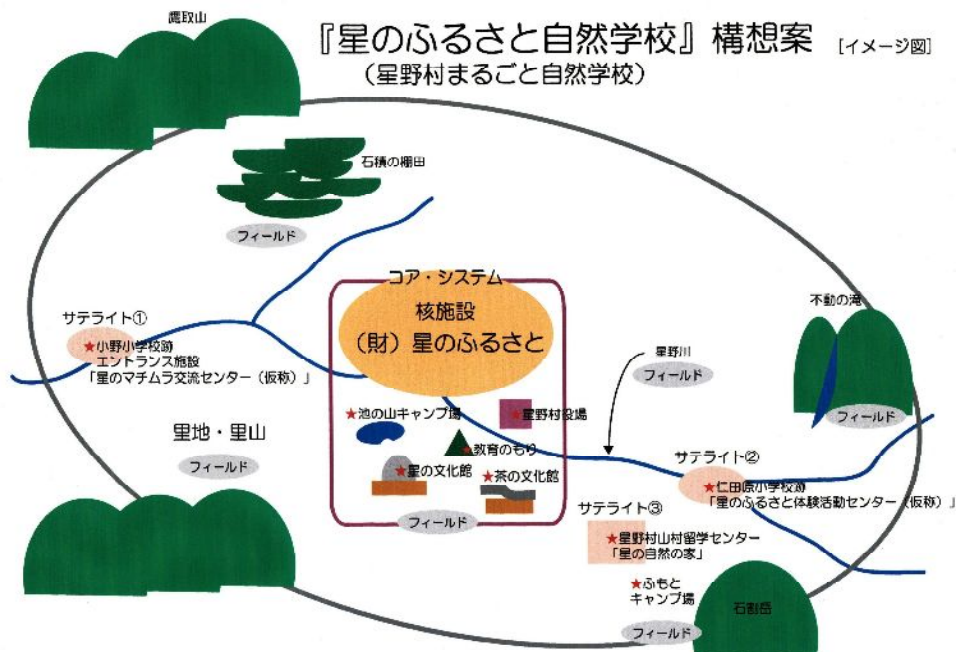
昨今、食品の残留農薬問題、偽装問題に端を發して食の安心・安全が注目されています。又、昨秋からの世界同時不況で過去に例をみない大企業のリストラ策のあおりを受け、都会での生活苦がクローズアップされてきました。こうした時代背景により一段と地方が見直される時代になりました。星野村に本格的な追い風が吹く時代に突入したと言っても過言ではありません。

来年2月の合併まで残すところ10ヶ月です。新年度予算で基幹産業振興、後継者育成、学校跡地利活用、直売所運営など出来る限りの施策を実施します。外部環境を上手くチャンスに結び付け、住民の皆さんと一緒に新市への準備をして参りましょう。

『星のふるさと自然学校』構想

星野村が将来へ向けて地域の活性化、新たな地域づくりの方策として、星野村をまるごと自然学校とした『星のふるさと自然学校』構想が考えられています。3月定例会では、一昨年廃校になった椋谷、小野、仁田原3つの小学校を、それぞれ『椋谷地域交流センタ

『星のふるさと自然学校』構想案 [イメージ図]
(星野村まるごと自然学校)



ー』『小野地域交流センター』『上郷地域交流センター』とする設置及び管理に関する条例が決まりました。併せて旧小野小学校周辺整備事業や旧仁田原小学校舎整備事業が始まる予定です。

この『星のふるさと自然学校』の中核組織は、現在の「財団法人星のふるさと」になります。施設の有効活用は住民の皆さんと知恵を出し合い、一緒に考え、地域発展の為に

協力していきます。住民の皆さんが今まで以上に楽しく交流できる、気軽に参加できる機会が増えてきます。星野村外の企業や団体とも連携しながら大勢のお客様が、星野村に来て頂く、星野村を知って頂く、星野村を好きになって頂く、夢がある構想のスタートです。

「第3次星と文化の里づくり事業計画」も出揃い、合併後の星野村が体験型観光の中心的役割を担える基盤が着実に整ってきました。そして皆さんの心が一丸となれば鬼に金棒です。星野村は「福岡県や九州ブランド」から「全国ブランド」になるのもそう遠くないと私は思っています。新市に向けた村の取り組みにご理解・ご協力をお願い致します。

新市へ向けての村長の姿勢を問う！

3月の定例会では、合併前に星野村として取り組む事業を盛り込んだ平成20年度補正予算、自治体星野村として最後の編成となる平成21年度予算について審議をしました。又、合併に向けた星野村の課題について7名の議員が村長へ厳しい質問を投げかけました。私も「学校跡地、直売所管理運営についての施策と方針について」答弁を求めました。

(村長への質問の要旨)

来年2月の市町村合併を控え、今回の補正

予算や当初予算で学校跡地や直売所のハード事業を予定されております。受け皿として財団法人星のふるさと、村内外のNPO、地域団体などを考えておられますが、円滑な運営には企画立案や行動力がある優秀な人材が必要で、他の組織と相互に上手く連携していく為の支援が必要と考えます。

村外からの利用者を増やす上では、先ほど伊藤議員の質問にもあった「地域ブランド」の向上も大きくからんでくると考えます。

村長の考え方、充実する為の施策や方針、そして、新市へ引き継ぐ上で今後どんな政治的交渉、姿勢をもっておられるのか伺います。

● 地域の方々、携わる方々のニーズを熟慮してのハード事業だと考えるが、村長の見解を伺います？

● 造ったらあとは地域や関係者にお任せというわけには行かないと考えますが村長はどう考えますか？

● 施設整備が、星野村や地域に対して、どのような投資効果を生むと考えていますか？

● 行き当たり、その場しのぎの施策ではダメ

で投資効果が上がるように次々と案を提供すべきだと思います。小野小学校跡地、仁田原学校跡地整備の完成後、管理運営が上手いっているイメージを村長の頭の中には描かれていますか？

● この投資効果を高めるにはやはり人材じゃない！

教育や運営に付随していく資金が必要になってくるが、この支援はやっていくのですか？

● 幹線道路沿いで直売所整備の件ですが、生産から販売のシステムを再構築しなくてはならない。特に今日の経済状況を踏まえ、販売網の構築が急務であります。村長自らが、例えば、東国原宮崎県知事や2月にお越し頂いた樋渡武雄市長のように全国を飛び回りながらトップセールスをされる考えはあるのですか？



● 学校跡地及び周辺の活用については行政、財団、地域内外の組織、地域住民との連携が

重要であります。行政としては地域内外の組織、地域住民にかなり期待しているようですが、核となる人材が不十分であると思われるかもしれません。合併までの一年では人材教育が出来ない可能性もあるし、合併後も人材育成の支援が不可欠になってきます。その場合新市へどうつなげていくのですか？

●資金面も含めて地域人材育成は、「財団星のふるさと」が受けもつと考えて良いのですか？



●先週土曜日の3月14日、日田市大山町で開催されました地域活性化フォーラムに参加してきました。配布された冊子の中に人材とは、「元気（気力・体力）プラス知力を持った人である」と書かれています。

私なりに星野村に当てはめると、「知力とは、

誰よりも星野村が好きで星野村のことを知り抜き、星野村のより良い方向を自ら考え工夫できる頭の働きの良さであり、星野村内だけではなく、星野村の外へ向かって開かれた精神と感覚を持ち、異質のものとのふれあいを通じ、自己を実現し、自己を磨こうとする人。すなわち、こういうリーダーを創らないといけないわけです。

「このような人になりたいと思っている人」を巻き込んで「リーダーにならなければならぬ世界」へ誘い込む舞台づくりが必要であります。この先導役を村長がやるべきだと思いますが、村長は出来ますか？

●人材育成について今まで何回も質問しましたが、12月定例会では「星のツーリズム大学」について人材教育や地域資源の見直しに関する観点から質問をしました。答弁の中で、副村長は地域の所得の向上、つまり「稼げる星野村」につながる必要があると言われました。

結局、人材作り、システム作りの基礎や人的ネットワークの構築、あるいはヤル気を持たせる効果が狙いだったと思います。村内での人材育成が急務というならば、前にも言いましたとおり「星のツーリズム大学」への参加者をもっと増やすべきではないかと思うの

です。“まず隗より始めよ”です。村長は、「星のツーリズム大学」をこの時期にやる意義について役場職員全員の意識の統一、方向性の確認が出来るのですか？

●特に基幹産業である農林業の後継者、中学生、高校生、大学生の参加も大いに募るべきであるし、現在のお役所型チラシや広報無線で知らせるやり方では不十分です。

「星のツーリズム大学」の現在のチラシは単なる告知・周知の紙であって、「集客のチラシ」にはなっていないと思います。現在の内容では、役場がやっているもの、自分には関係ないと住民の大多数が思っているのではないのでしょうか？

●自分の事として住民へ意識し感じてもらうためには、チラシづくりから考え直す必要があると思います。

例えば「星のツーリズム大学開催！」そしてサブタイトルに、お茶1キロ当り3000円が、6000円になるヒントとは？この不況を乗り切る毎月20000円の主婦の内職術とは？と入れてみたらどうでしょうか。参加者はかなり増えると思います。

「明確に自分自身に関係あること」との意識付けが大切です。

●職員は家族と同じである、と言われていました。合併を控えて今まで以上に情報の共有、意思統一がなされ、特に管理職の方々とは以心伝心、心でつながり、村長から見れば「部下はしっかりとやってきている」、又、職員から見れば「村長はリーダーシップを発揮してよくやっている」と相互に信頼関係が保たれているはずですが、そうなっていますか？

●昨年にリコールの要望もあつたにも関わらず、村長は自ら望んで村長の職を遂行されているのです。村長として、これだけは誰にも負けないと思われているもの、星野村内では一番優れているというものは何だと思つていますか？

●2月26日に開催されました「村づくりシンポジウム」での樋渡武雄市長の講演では、星野村のお茶と武雄市のレモングラスのコラボレーションの提案などが話しに出ました。新しく出来る直売所運営にもカギとなりますのでレモングラスと星野茶をミックスした新商品の話しはどこまで進んでいますか？

●武雄市とのコラボレーション商品の中には、大ヒットしているものもありますので、星野村のトップである村長が動けば星野村と

武雄市のコラボレーションによる新商品が早めに完成するはずですが。これが、新しく出来る直売所の売れ筋商品・ヒット商品になる可能性もあるので、村長の更なる行動を期待したいと思います。

●新八女市において星野村はどんな位置づけを考え、村長としてどのような位置づけを考えているのですか？

●最後になりますが、議員としての1年9ヶ月、今までの一般質問に対する村長の答弁内容を読み返してみました。判断が遅い！責任を持つて最後までやり、その結果責任を自分が取るという覚悟が出来ていない！と感じました。

改めて伺いますが、合併までに1市2町1村との交渉や村政運営を高木村長に任せて良いのですか？

※答弁内容については、次回の議会だよりをご覧ください。

「星のツーリズム大学」は、今年度も引き続き開校されます。優秀な講師の先生から、毎回、星野村に居ながらにして、この不景気を乗り越えるビジネスのヒントを沢山聞くこと

ができます。そして先生方とつながりを持って絶好の機会です。

明日への知恵とやる気が湧いてくる「星のツーリズム大学」へ、ふるってご参加下さい。



一月～三月の主な活動

- 一・五 新年名刺交換会
- 一・五 成人式来賓参加
- 一・六 星野村消防団出初式来賓参加
- 一・一六 全員協議会（地域活性化・生活支援臨時交付金の協議など）
- 一・二四 福岡県議・重野正敏新春の集い
- 一・二八～一・三〇 陳情視察研修
- 二・一 第二〇回農業振興大会
- 二・八 衆議院議員・古賀誠新春の集い
- 二・一〇 総務常任委員会（所管事務調査）
- 二・一六 全員協議会（所管事務調査の協議）
- 二・二七 広報委員会
- 三・二 全員協議会（三月定例会前の協議）
- 三・四 星野村健康づくり推進協議会
- 三・一〇 三月定例会（議案審議）
- 三・一一 三月定例会（議案審議・予算審査）

- 三・一二 三月定例会（予算審査特別委員会）
- 三・一三 三月定例会（予算審査特別委員会）
- 三・一四 星野中学校卒業式来賓参加
- 三・一六 三月定例会（予算審査特別委員会）
- 三・一七 三月定例会（議案審議・一般質問）
- 三・一九 星野小学校卒業式来賓参加
- 三・二〇 森林基幹道星野線開通式
- 三・二九 ふれあい交流合瀬耳納トンネル整備用地測量着手式
- 三・三〇 真名子ダム建設反対決起大会

インターネットのホームページでも
私の日々の活動を公開しています!

<http://h-yamaguchi.com>

炎ゆる 検索



星野村に根ざす教育を!

春は別れや出会いの季節です。星野村立として最後の卒業証書授与式が3月14日に星野中学校で、3月19日に星野小学校でそれぞれ行われました。将来の星野村を担っていく生徒たちの節目の季節でもあります。

私は、今までの議会の一般質問の中でも星野村の将来を担う教育戦略の必要性を訴えて

きました。卒業式に参加して改めて感じたことがあります。

NHK出版 徳野貞雄著『農村(ムラ)の幸せ、都会(マチ)の幸せ 家族・食・暮らし』の中の「子どもが帰ってこられる社会を」にはこう書かれています。

『高度成長期以降、都市部に人が移動している。これを引き起こしているのが産業社会だと言いました。そしてそれに一番手を貸しているのが学校です。学校の先生は勉強がよくなる子とか、能力のある子に、決して「お前はよう勉強できる。お前は能力あるな。だからお前は、大学行くのを止めて、この村でがんばれよ」とは言いません。せっかく勉強ができるのだから、いい大学に行って、いい会社へ入りなさいと言います。そして行った二度と帰ってこない。

子どもが三人いて、兄ちゃんは東京大学に入って、お姉ちゃんは慶応大学に行った。今度一番下の子が早稲田大学に入りました。「うちの子は皆優秀だな、すごいな、でも、家は潰れるな」ということです。誰も帰ってこない。「うちの息子、東大に行かなくてよかったな。地元の大学に行って、役場に入ってくれた。まあ、あと50年は大丈夫。あそこは本家筋だけど、今の親父の代までだな」ということになるのです。

星野村子ども宣言

私たちは、この子ども村議会で、自分たちの住んでいる星野村について考えてみました。これからの星野村について真剣に考え、勉強するよい機会になりました。星野村は、玉露の里としてすばらしい自然環境に恵まれ、星の文化館や茶の文化館など、他にない個性的な施設を有しています。これからも観光地として十分伸びていける地域です。星野村民であることを誇りとし、村民全員が笑顔でいられるように、ここに次のことを約束し、実行していくことを誓います。

- 1 子どもたちの方から、地域の方へ元氣なあいさつをします。
- 2 お年寄りや小さな子どもに親切にして、困っている人を助けます。
- 3 ゴミのポイ捨てをせず、ゴミ拾いを心がけます。
- 4 節電やゴミの減量化に努め、環境にやさしい生活を心がけます。

以上のことを宣言いたします。

平成 21 年 2 月 25 日

星野子ども村議会

2月25日 星野村初・子ども村議会での「星野村子ども宣言」

勉強ができることはもちろん悪いことではありません。東大に行くのも早稲田に行くのもよいのです。でも、彼らが将来帰ってくる、帰ってこられるような仕掛けをしてきたのか。その仕掛けをしていない。だから行ったきり帰ってこないわけです。こうした学校のあり方、親の教育のあり方を、基本的に考え直す。親の教育のあり方を、基本的な考え直さなくては行けません。これは昔も今の社会も一緒です。『未曾有の世界情勢に直面した現在、改めて『星野村に根ざす教育』を家庭や地域や学校が協力して進めていくことこそが、星野村の発展につながると思います。』

やいばんに

明治以来、4回の世界大不況がありました。

『1回目は、米国の鉄道建設バブルが崩壊した1873年恐慌。ここでは電話機の発明による通信革命が起こり、機械技術の発明や発見も相次ぎ、近代工業社会が開幕。芸術の世界ではモネやルノアールなど、明るい印象派の時代が始まりました。』

2回目は、反トラスト運動が激化する下での1907年の金融恐慌。ここではT型フォードの発売で輸送革命が始まり大量生産時代が開幕。芸術の世界ではブロードウェイ・ミュージカルがヒットし、ピカソらによるキュビズム時代が始まりました。』

3回目は、1929年の大恐慌。ここではナイロンや合成樹脂など素材革命が起こり、ハリウッドの黄金期でディズニーやチャップリンが活躍し、大衆文化時代が開幕しました。そして4回目は、1973年の石油ショックによる世界不況。マイクロソフト創業者であるビル・ゲイツらの登場とITの発展で情報革命が始まり、脱工業社会が開花しました。さて、今回100年に一度の大不況といわれる今回の不況は、世界にどんな変化をもたらすのでしょうか？

大量生産・大量消費社会から環境創造型社会へ転換し、最先端技術を駆使し生活を全面

的に見直すグリーン革命が始まります。そこには日本の美的センスを生かした生活文明の開化が期待されます。』(日経新聞1月8日)

私は、「都会から田舎へ」の意識革命が日本でも急ピッチで進むと思われれます。その中で、星野村がキラリと光るオンリーワン地域として注目を浴び、村内に暮らす人々が活躍できる場が必ずあると信じています。

折しも今年1月20日、アメリカ大統領にバラク・オバマ氏が就任しました。大統領就任演説は、世界中の注目を集めました。その演説の内容の一部を、私なりに加筆した文章を紹介し、季刊誌第6号の結びと致します。

『今、合併を控えた星野村民に求められているのは、「新たな責任の時代」であるという認識です。星野村民の一人ひとりが自分自身、自分の地域に対して役割を負うという認識です。いやいや請け負う役割ではなく、自らが喜んでする役割です。面倒な課題に全力で向かうことこそが、充実感を満たし、我々らしさを見せることになるのです。』

3ヶ月に1度発行する私の季刊誌は、お陰様で今回が第6号となりました。私のインターネットのホームページにも掲載していますので、そちらからもご覧頂けます。

星野村は、これから新茶の季節を迎え、又、多くのお客様をお迎えする時期でもあります。体調に注意し充実した日々をお過ごし下さい。

『炎ゆる情熱☆山口浩久通信』の バックナンバー

- 第一号 二〇〇七年一月一日発行
- 第二号 二〇〇八年一月一日発行
- 第三号 二〇〇八年四月一日発行
- 第四号 二〇〇八年一月一日発行
- 第五号 二〇〇九年一月一日発行

観光立村を目指し、日本一のおもてなしの心
でお客様を迎えたい！

そんな思いで、元気なあいさつ運動・美化運動・健康づくり運動に率先して励みます。

山口浩久へのご意見・ご質問などをお気軽に
お寄せ下さい。(電話 五二―二二二一)

『小さな一歩・今日の一歩が
明日の星野村を創る！』

村議会議員 山口浩久のホームページ
<http://www.h-yamaguchi.com/>
E-mail: info@h-yamaguchi.com